

トルコ

医療で観光客を呼ぶ

ジェトロ海外調査部主査 小野 充人

中東地域は主要国が医療観光振興に力を入れ始めている。中東で医療観光が盛んな国は、トルコ、ヨルダン、サウジアラビアなど。本稿では、同地域で最も多くの外国人を受け入れ、治療しているトルコの取り組みの現況を紹介する。

医療観光は伸び代大

トルコ政府が医療観光の振興に力を入れ始めた。医療観光とは、医療を目的として外国へ旅行すること。ところが、トルコの医療観光統計（保健省）は少し特殊である。国内で医療サービスを受けた総数を計上しており、観光のついでに医療サービスを受けた場合をも含む。トルコで医療サービスを受けた人数は、約25万人（2012年）。11年の15万6,176人^{注1}から10万人程度増えている。とはいえ、国連世界観光機関によれば、訪問者数で世界第6位の観光大国トルコは、年間約3,600万人の観光客を受け入れる。これに比べると、医療観光客数は1%にも満たない（表1）。もっと盛んになっても不思議ではないと、少なくともトルコ側は考えているわけだ。

医療観光は従来、低所得国の富裕層が自国にはないより良質な医療サービスを先進国に求める場合が多かった。が、近年は交通費の低廉化、インターネットによる情報化の進展により気軽に国外で医療行為を受ける事例が世界的に増えている。

先進国の人々がより安価に提供される医療サービスを求めて途上国に向かうケースもある。日本のように公的保険制度が普及し、国内で良質な医療が比較的安価に提供される国はまれで、自国で医療サービスが受けられない患者が多いということだろう。例えば、十分な水準の医療サービスは提供されていても、保険がない、あるいは低所得のため高額な医療費が支払えない、保険はあっても診療までの待ち時間が長く実質的に治療が受けられない、あるいは自国の医療水準が低いというより良い治療を求める——といったケースだ。

トルコ医療観光の競争力

医療観光が成立するための条件とは何か。良質な医療サービスが相対的に安価に提供されることである。

トルコの医療水準およびその質は高い。その根拠は何か。一般的に、米国の国際医療機能評価機関（JCI）の認証を取得している病院は医療水準が高いとされる。保健省は、医療水準向上のためにJCIと協力し、医療制度（病院デザイン、投薬、感染予防、患者搬送、介護など）の近代化を図ってきた。その結果、JCIの認証を取得している病院が約50に上る。これは一国としては世界最大規模である。

次は費用。医療観光における主要コストは、①入院・治療費など直接的な医療行為に伴い生じる費用、②治療のコーディネーションなどの付帯サービス費用、③医療サービス提供国までの交通費——など。

表2によれば、インドの価格競争力の高さは、世界的に評価されているが、トルコは脊椎固定、骨髄移植などでの医療費はインドと同等もしくはインドよりも安い。近隣諸国の場合は交通費の面でより有利になる。トルコ航空は遠方からの医療観光客誘致のため、米国からの旅客については最大25%、その他の国からの

表1 トルコの医療観光客数

（単位：万人、%）

	外国人医療観光客数(1)	医療観光客数(2)	訪問客数(2)	医療観光比率
2010年	11.0	16.3	3,302.8	0.5
2011年	15.6	18.7	3,615.1	0.5
2012年	25.2	21.6	3,646.4	0.6
2013年	n.a.	19.2	3,109.9	0.6

注：①2013年値は1～9月累計

②医療観光客数(2)にはトルコ人国外居住者を含む

資料：(1)トルコ保健省および(2)トルコ統計局の資料を基に作成



観光客でにぎわうバザール

旅客には10~20%割引いた運賃を提供している^{注2}。
医療目的でトルコを訪れた医療観光客の上位10カ国を順に見てみよう。ドイツ、ブルガリア、イラク、ルーマニア、リビア、アゼルバイジャン、英国、オランダ、米国、ロシアの順で、近隣諸国が多い。これは、これら近隣諸国および相対的に安い医療を求める主要国の中では、トルコの医療水準が高いこと、交通費が安く済むことが理由だろう。また、文化的に類似性を持っていることから、治療を受けるに当たって心理的な抵抗が少ないという要因もあると考えられる。

ドイツ、英国、米国の場合は、経済的に治療が受けられる点が評価され、英国の場合は治療に要する待ち時間を回避するという要因がこれに加わるようだ。

保健省によると、トルコの医療観光では、眼科、腫瘍治療、肥満治療、心臓血管外科、脳外科、植毛などを含む美容整形、歯科、不妊治療に人気がある。欧州人にとって最も人気があるのは眼科手術で、4、5日の滞在で費用は2,500米ドルという。欧州からの訪問が多い理由も納得できそうだ。

医療フリーゾーンで医療観光を振興

保健省は10年3月に医療観光部門を開設し、同産業育成に努めている。建国100年に当たる23年には、医療観光客数を200万人（その支出額200億ドル）に増やすことを目標に掲げる。

トルコが医療観光に力を入れるのは、その成長性と経済効果の大きさへの期待にある。同国を訪れる観光

客1人当たりの支出額は、通常の休暇観光の場合650ドル。それが医療観光の場合は、2,500~3,000ドル（保健省推計）と桁違いの規模になる。

医療観光振興策として、政府は医療フリーゾーンの開設を予定している。これは、医療機関の他、検査施設、大学・研究、温泉療養施設などを含む大規模なもので、健康村を形成する計画だ。訪問客の85%を外国人医療観光客（患者）と見込む。建設には減免税措置を与え、外国投資取り込みを図る。また、従来は外国から医師を招へいして雇う場合には、医師免許に加えてトルコ語の理解力が必要だったが、その制約をなくす予定だ。幅広く医療関係者を招致するためだ。このように運営の自由度を上げることで、最先端医療技術などの移転を図り、医療の高付加価値化を図る計画だ。

通常の医療観光に加え、温泉医療観光、高齢者医療観光、障害者医療観光にも注目している。温泉医療観光は、トルコが誇る恵まれた温泉資源を活用し、競争力のある温泉療法を提供できるとみている。高齢者医療観光は、将来の市場拡大を見据えたもの。高齢化に向かうのはトルコだけの話ではない。今後、多くの国が直面する課題である。その意味で、高齢者向け医療はこれから需要が高まろう。障害者医療観光は、同国には人口の12%、約900万人の障害者がおり、ノウハウには自信を示す。また、近隣諸国からの需要も十分あると判断している。

日本でも近年医療観光が注目されている。日本とトルコでは、物価水準、外国人観光客の訪問実績などその置かれる環境に違いはあっても医療観光を促進しようとするトルコの取り組みは、日本にとって参考になる点が多いのではなかろうか。



表2 トルコの医療費の国際比較 (単位:米ドル)

	米国	トルコ	ドイツ	インド
冠動脈バイパス	129,750	11,375~15,000	17,335	8,666
心臓弁置換	58,250	16,950	n.a.	11,750
股関節置換	45,000	10,750	11,644	7,000
人工膝関節置換	40,000	11,200	11,781	7,833
脊椎固定	62,000	7,125	13,500~15,000	12,000
脂肪吸引	9,000	3,333	4,376	2,500
骨髄移植	300,000	40,000~70,000	250,000	40,000
ガンマーナイフ	40,000	8,676	16,650~20,000	n.a.
サイバーナイフ	12,000	n.a.	n.a.	13,500
腔式子宮摘出	20,000	7,000	5,500~7,000	4,250

出所: DEIK/Health Tourism Business Council (SAiK) ウェブサイト

注1: 医療観光客数15万6,176人(2011年)の内訳は、医療目的でトルコを訪れた人数:5万9,473人(全体に占める割合38.1%)、他の目的で訪問中に医療サービスを受けた人数:9万6,703人(61.9%)である。トルコでは植毛、美容整形、歯科治療のために約10万人が訪問していると推計されているが、この統計には含まれていない。

注2: "Turkish Airlines supports medical tourism" [International Medical Travel Journal] 2010年9月17日付